

協働推進事業の見直し答申案に対する委員意見と対応方針

No.	項目	ご意見	対応方針
1	前文	<p>諮問内容が、「協働推進事業の見直しについて」であるが、協働推進事業自体が中止であり、市の方針として新規事業はやらないため、協働推進事業より広義の協働を進める方向性について意見を申し述べます。</p> <p>ただし、以下の内容を整備していくことで、市の財政基盤が回復し協働推進事業を復活する際に役立つものと考えます。</p> <p>⇒上記のような書き出しで、審議の結果をまとめたらどうでしょうか？</p>	修正させていただいた上で、追加します。
2	全体	<p>「市」の使い方が一定ではないような気がします。</p> <p>(2)では、市役所全体の職員の方々の仕事</p> <p>(3)では、市の全体の方針に沿っている</p> <p>では、市民が気づいて市が気づけていない地域課題</p> <p>(4)では、しっかりと市の中で共有化を図って</p> <p>では、市と団体の金銭や時間等の感覚のズレ</p>	「市」（地方公共団体としての茅ヶ崎市）、「市職員」に表現を整理します。
3	全体	<p>難解なカタカナ文字が多いので理解しにくい。</p> <p>「ステートメントを語る」</p> <p>「きちんとコミュニケーションする」</p> <p>「協働事業をコモンス化すること」</p>	説明の追加や表現を修正します。
4	(1)	<p>①(1)「・コミュニケーションをとるということは大事です。・・・」のところ。この発言は山田先生の間をうけてのものだったので、「信頼や安心という関係性をつくるためにはコミュニケーションをとることが大事」という記述だけでよいと思います。(応援したい、という言い回しは、もうちょっと日常的な市民活動支援をイメージしてのことだったので違和感があります)</p>	表現を修正します。
5	(1)	<p>・人と人が地域の中につながること、異なる主体が横の関係をつくることで地域の課題に取り組むことがとても大切な時代です。</p>	追加します。

6	(1)	・協働事業を行う中で、「相乗効果」の意義がみえてきました。市民が当事者としての知識や経験を発揮し地域や社会の課題へ取り組み成長していくこと、また、行政の専門性がそれに寄り添って変化し成長することにより、多面的な広がりのある協働の意義が見えてきました。(協働の意義の明確化のための新しいメッセージ性をどう表すかの一案ですが)	追加します。
7	(2)	・行政の中のコーディネート機能が大事です。一つの課で解決できないことも、複数の課との協働で解決できることも多いです。	追加します。
8	(3)	② (3) 「・市が、今どのようなことを優先的に解決していくべきか・・・」のところ。この発言も「市の財政が厳しい中で」という前提があります。市民側からの提案だけではなく、市からも課題を出してもらい、それを互いに共有し、優先度の高いものから課題解決に取り組んでいく必要があるのではないか、ということも補足します。	表現を修正します。
9	(3)	・自治基本条例26条 市民相互の協働については、「自発的に行われるべきもの」と規定されているようですが、自発性のみにはなかなか進まない現状があると思います。地域課題の共有化を進めなじみのない市民同士の関係をどのようにつくっていくのか。「市民同士の協働を積極的に支援する」ということを条例に位置付けることも必要かもしれません。	追加します。
10	(5)	・市民自治推進課の事業の方向性の1つとして、パートナーシップの検証と創出に取り組むことが重要です。	追加します。
11	(5)	・協働に関する情報発信、交流の場づくり、コーディネートの手法を見直していくことも大切です。	追加します。

※その他 全体を通して表現を見直し、修正しました。